

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果(最終)	分析(成果と課題、改善策等)最終
1 変化が激しく正解のない社会で活躍し貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に行動し、難関国公立大学等に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① GIGAスクール構想に基づくICT機器の活用等を通じて、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	○教務課	【努力指標】 全教員の授業評価において、左記項目の「よくあてはまる(A)」を増やす。	授業評価項目の「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目において「よくあてはまる(A)」と回答する生徒の平均が A 57%以上 B 52%以上 C 45%以上 D 45%未満	[12月実施「後期生徒による授業評価」] A(よくあてはまる)評価の平均 55.7% → 【判定 B】 <内訳> 授業のねらい 55.4%(1年:48.3%,2年:60.5%,3年:59.6%) 教員の熱意や工夫 59.6%(1年:52.9%,2年:65.6%,3年:62.1%) 説明や指示 55.5%(1年:48.3%,2年:59.5%,3年:60.9%) 考えさせる場面 60.6%(1年:54.0%,2年:66.9%,3年:62.7%) 興味・関心が高まる 47.2%(1年:39.6%,2年:51.3%,3年:53.3%)	A評価の平均は55.7%(前年同期54.3%)となり、全項目で前年数値を上回った。内訳は、「ねらい」55.4%、「熱意や工夫」59.6%、「説明や指示」55.5%、「考えさせる場面」60.6%、「興味・関心」47.2%である。特に、例年課題となっていた「興味・関心」が3.5ポイント上昇したことは、今年度実施した「相互授業参観」を通じた指導法の共有や授業改善の取り組みが、生徒の学習意欲喚起に結実したものと分析する。次年度も生徒の学びの質を高めるべく、組織的な授業力の向上を推進していく。
	② 授業や総合的な探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	○教務 進路指導 NSH推進 学年	【成果指標】 生徒が自らの進路実現のためにどのような力が必要かを考え、主体的に学習を進めている。	自らの学習について (ア)授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ)授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ)授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ)その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] 問1~3 私は、(英語・数学・国語)について、学校での学習(授業・予復習・課題・試験)に対して主体的に取り組んでいる。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 3教科平均88.4% → 【判定 A】 <内訳> 英語 88.5%(ア:36.7%,イ:51.8%) 数学 92.1%(ア:42.0%,イ:50.1%) 国語 84.5%(ア:31.7%,イ:52.8%)	前回の調査と比較して3教科の肯定的な回答の平均は88.4%で、前期同様「判定A」を維持した(英語88.5%、数学92.1%、国語84.5%と全教科で上昇)。定期試験や課題に対する生徒の高い意識が、良好な結果の要因と考えられる。今後はこの数値を堅持しつつ、さらなる向上を目指し、日常的に主体的に学習へ取り組むための動機付けと自覚を促す指導を徹底していく。
	③ 変化が激しく正解のない社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	○NSH推進 ○外国語科	【成果指標】 生徒の英語による実践的コミュニケーション能力が順調に伸長している。	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[12月受検GTEC検定版] 2年生が12月に受検したGTEC検定版の結果、 A2.2以上が307人91.9% → 【判定 A】 <参考>1年生 269人/333人 80.8% 2年生 307人/334人 91.9% 全体 576人/667人 86.4%	今年度前期と比較し、目標を達成した生徒の割合は1年生で61.5%(前回59.3%・判定A)、2年生で52.5%(前回47.4%・判定B)となり、両学年ともに改善が見られた。定期試験や課題に限定されない真の学びを実現するため、次年度も引き続き、生徒の興味・関心を高める授業改善を推進していく。授業内容の工夫を通じて学習の質を向上させることで、主体的な家庭学習時間のさらなる伸長を図りたい。
	④ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	○進路指導 教務 学年 教科	【成果指標】 ア 難関大学合格者数 20名以上 イ 金沢大学合格者数 80名以上 ウ 国公立大学合格者数 250名以上	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	[大学入試結果] ア 18名(現役 14名+既卒 4名) イ 67名(現役 63名+既卒 4名) ウ 279名(現役257名+既卒22名) ウの1指標を達成→【判定 C】	前年度320人(91.4%)から人数は減ったものの、割合は増えた。2年人文科学コースでは、7月、10月の県内在住外国人との交流研修において各生徒が課題研究のプレゼンテーションなどを通じて、留学生(JAIST)と能動的に英語で会話をし、学習意欲を高めることにつながった。今後も継続して取り組んでいく。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	○生徒指導 学年	【努力指標】 限られた時間の中で効率的・効果的な部活動を行い、学習においても効率的・効果的にできる工夫をする。	生徒が「部活動は限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる」の質問に対して (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)と答えた合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] 問20 私は、限られた時間の中で効率的・効果的な部活動に取り組んでいる。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 85.1%(ア:44.5%,イ:40.6%) → 【判定 B】 <内訳> 1年 88.5%(ア:44.1%,イ:44.4%) 2年 85.6%(ア:47.5%,イ:38.1%) 3年 81.1%(ア:41.9%,イ:39.2%) [12月実施「学校評価アンケート(教諭等)」] 問20 (効率的・効果的な部活動) 私は、限られた時間の中で効率的・効果的な部活動の運営に努めている。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 86.2%(ア:26.2%,イ:60.0%) → 【判定 B】 <内訳> ウ:7.7%,エ:1.5%	肯定的に回答した生徒の割合は、昨年度、一昨年度77%に比べ、増加した。教員とあわせ概ね効率的・効果的に取り組んでいる割合が高くなった。文武両道に向けた部活動の取り組みについて限られた時間の中で、今後も継続して効率的・効果的な活動に心掛けるよう促していきたい。
			【成果指標】 下校時間を遵守させることによって、学習時間の確保とけじめある学校生活を徹底していきたい。	下校時間を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] 問22.私は、下校時間(平日午後7時)を遵守している。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 94.9%(ア:68.2%,イ:26.7%) → 【判定 B】 <内訳> 1年 92.1%(ア:64.4%,イ:27.7%) 2年 93.8%(ア:60.7%,イ:33.1%) 3年 99.1%(ア:79.9%,イ:19.2%)	概ね下校時間を厳守しているが、部活動後、午後7時を過ぎてから下校する生徒が見受けられる。効果的・効率的な活動にも繋がるため、部活動終了後の速やかな下校の徹底を今後も継続して促していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	授業評価について、1年間で見ると、評価が向上している。教員、生徒ともに頑張っているといえる。1年から2年については大きく伸びているが、2年から3年の伸びは小さい。2年から3年にかけての取り組みを充実させることで更に向上させることができるのではないかな。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒の高い志の実現には生徒が主体的に考え行動することが大切であるとする。生徒が学ぶ意欲を持ち、自ら考え、自ら行動する力を向上させるよう、授業内容の工夫、生徒の興味関心を更に高めることができるように、さらには、今後のキャリア意識の醸成に向け、生徒が問いを立てる力を向上させ、発展的な知識の理解につながる指導となるよう、授業改善や学校行事等の工夫に取り組む。					

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果(最終)	分析(成果と課題、改善策等)最終
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましく思いやりのある生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	○生徒指導 総務	【成果指標】 あいさつにより元気で活力ある学校づくりと品位のある頭髪・服装を目指して指導する。	・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 問16 私は誰に対しても積極的に挨拶している。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 86.6%(ア:34.1%、イ:52.5%) →【判定 B】 <内訳> 1年 83.3%(ア:31.9%、イ:51.4%) 2年 85.9%(ア:34.9%、イ:51.0%) 3年 90.7%(ア:35.6%、イ:55.1%) [12月実施「学校評価アンケート(教員)』 問17(挨拶)本校の生徒は、誰に対しても積極的に挨拶している。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 61.5%(ア:9.2%、イ:52.3%) →【判定 D】	肯定的に回答した生徒の割合は、昨年度81%比べ増加したが、教員側は61.5%と低く、生徒の回答と差がある。今後も生徒側には、この差について伝え、挨拶の重要性を伝え、挨拶をされた側(受け手)が積極的に挨拶をされたと思うような挨拶ができるよう、さらに指導、助言していきたい。
				・きちんとした頭髪、服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 問17 私はきちんとした頭髪・服装をしている (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 97.3%(ア:52.5%、イ:44.8%) →【判定 A】 <内訳> 1年 生徒97.5%(ア:49.2%、イ:48.3%) 2年 生徒96.5%(ア:52.8%、イ:43.7%) 3年 生徒97.9%(ア:55.7%、イ:42.9%) [12月実施「学校評価アンケート(保護者)』 問6(服装・容儀)本校の生徒は、きちんとした頭髪・服装をしている。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 90.9%(ア:30.9%、イ:60.0%) →【判定 B】 [12月実施「学校評価アンケート(教諭等)』 問18(服装・容儀)本校の生徒は、きちんとした頭髪・服装をしている。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 66.1%(ア:4.6%、イ:61.5%) →【判定 D】	生徒97.3%、保護者90.9%と肯定的に回答した割合が高いものの、教諭は66.1%と低く、きちんとした頭髪・服装の認識に差がある。きちんとした身だしなみについて具体的に例示し、全員の共通認識のもと、生徒自身が自らふさわしい服装・容儀に心掛けるよう働きかけていきたい。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	○生徒指導 総務	【成果指標】 命にかかわることであるため、交通事故0件を目指して、交通ルールを遵守する取組や指導を行う。	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (ア)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 問18 私は、自転車に乗車するときも交通ルールを守っている。 (ア)よくあてはまる 57.9% →【判定 C】 <内訳> 1年 55.4% 2年 61.0% 3年 57.5%	昨年度前期が52%、後期が54%と徐々にではあるが交通ルールを守っている生徒の割合が増加してきた。ただ、外部の方から登下校中の生徒の自転車乗車マナーや交通ルール違反について苦情の連絡がある。今後も様々な機会を捉え、交通ルールの遵守、マナーの向上について訴えていき、交通事故防止につなげていきたい。
	③ 各課や学年が連携を密にするとともに、全ての教職員が生徒の様子に気を配ることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	○相談 生徒指導 保健 学年	【成果指標】 (生徒用) 生徒が悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)について学校に気軽に相談することができる。	本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 問28.本校は、悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態等)を相談しやすい。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまる 82.6% →【判定 A】 <内訳> 1年75.7%(ア22.9% イ52.8%) 2年84.2%(ア27.0% イ57.2%) 3年88.3%(ア30.8% イ57.5%)	・「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」と答えた生徒が昨年12月は57%だったが、今年度は8割を超える高い結果となった。中でも、3年生は相談しやすいと9割近い生徒が感じている。その一方で1年生は、8割に満たない状況もある。担任だけでなく、相談室や保健室、教科担任など、生徒が悩みを打ち明けやすい環境作りをするためにも、相談室だよりや保健室だよりなどを通して、悩みを聞く場所があることを今後も周知徹底できるようにしていきたい。
			問題の早期発見のため、悩みを抱える生徒の発するサインを見逃さず、対応することを意識している。	相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)』 問29(生徒の問題発見・解決のための組織的な対策)本校では、相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みを持つ生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)よくあてはまる 35.4% →【判定 D】 <内訳> (ア)35.4% (イ)53.8%	・「よくあてはまる」と答えた教員が7月より増え、(ア)+(イ)を合わせると89.2%が肯定的な評価となっているが、目標には大きく届かないため、引き続き情報交換を密にするなど、各課・学年で連携を深めていきたい。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	○生徒指導 学年	【成果指標】 スマートフォンについては学年集会や担任による面談等で生徒に働きかけ、学習に効果的な使い方などに工夫できるよう自律の態度を育成する。	学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 問29 学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内である。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 27.7%(ア:8.9%、イ:18.8%) →【判定 D】 <内訳> (ア)+(イ) 1年16.4% 2年18.5% 3年49.1%	1時間以内の生徒は受験を控えた3年生の割合が49.1%であるが、1年生では約9割、2年生では約8割の生徒が1時間を超えている。小学時よりスマートフォンを所持し、利用している生徒の割合が増えてきている中、他の端末機器とあわせ取扱い方や使いすぎによる様々な弊害など関係機関とも連携しながら適切な使用について指導していきたい。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	○図書 学年	【成果指標】 1ヶ月に1冊も本を読まない生徒を減らし、進んで読書に親しむ姿勢を身につけさせる。	1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	[読書量調査(生徒)』 9月1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合 41.9% →【判定 B】	7月のアンケートの際には30.9%【C判定】であったが、本を読んだ生徒が約10%増加した。1人1台端末を所持するようになって以降、県下の各高等学校で読書量が減少しているとの統計データが出ているが、文武両道で多忙な中、本校生徒達はすきま時間を活用して読書をしてきている。LHを活用した図書館講座等を通じて、今後も生徒達の読書意欲を高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	挨拶、感謝の心は、社会に出てからも大切である。本校の生徒が校内はもとより、校外においても気持ちの良い挨拶ができるよう、更には、TPOを踏まえた挨拶ができるよう、根気強く指導を継続してほしい。読書は人を育てると思う。現在ではスマホやパソコンなどの普及により、読書の方法も多様化しているが、今までのように紙ベースの書籍を読み、多くの活字に触れることができるよう、取り組んでほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	挨拶は大切であることは教員も共通認識している。今後さらに気持ちの良い挨拶ができるよう、教員から生徒に対し挨拶する姿勢を見せるなど、積極的な取り組みを行っていく。生徒の読書量の向上に対する取り組みについては、これまでの図書館講座を更なる充実させるための工夫、図書館蔵書の充実、図書館自体の在り方等について、今後検討していく。					

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	集計結果(最終)	分析(成果と課題、改善策等)最終
3 校是「文武両道」の実践を目指し、生徒の主体性を育みながら、学ぶ意味や成長する喜びを感じる授業・部活動等の教育活動を通して、明るく活気のある、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	○管理職	【努力指標】 教職員の共通理解のもと副主任の役割を明確化し、業務の平準化を促進させ、より組織的な学校運営を進める。	「各課・各学年が互いに連携し、組織として有効に機能している」という質問項目において (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 90%以上 B 75%以上 C 50%以上 D 50%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」 問2(組織としての協力体制) 本校は、各課・各学年が、互いに連携し、組織として有効に機能している。 (ア)よくあてはまる10.8%+(イ)あてはまる56.9% 計67.7% →【判定 C】 <内訳> (ウ)あまりあてはまらない24.6% (エ)あてはまらない1.5%	肯定的な回答は7月調査の66.2%から67.7%に1.5ポイント微増した。業務を効率的に運営するためには、各課内外での調整をうまく行い、学校組織全体が一体となって業務を実施する必要がある。今後は、業務の実施後には反省点を含め、広く意見を取りまとめ、次に活かすとともに、業務の改善を図っていく。さらに、教職員全体での共通理解のもと、業務の平準化を促進させ、より組織的な学校運営を進めていく。
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応する教員の資質を高める。	○管理職 教務 進路指導 保健 相談	【満足度指標】 研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まったと感ぜられる。	「取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた。」という質問項目に対して (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」 問31(研修の有効活用) 私は、取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができている。 (ア)よくあてはまる15.4% →【判定 D】 <内訳> (イ)あてはまる 72.3% (ウ)あまりあてはまらない6.2% (エ)あてはまらない 0.0% (オ)わからない 6.2%	よくあてはまるという回答は7月調査の9.2%から15.4%に増加したが、判定はDとなった。しかしながら、肯定的な意見は約87.9%になっており、今後、GIGA研修や学校防災の関する研修など、教職員にとって、より実践的な、より有意義な研修を開催し、それらの研修の成果を全職員が生かすという意識を強くもつことを徹底し、自信をもって「よくあてはまる」と回答できるよう進めていきたい。
	③ 部活動や課外活動に意欲をもって取り組み、生徒の自主性や自立心の育成を図る。	○生徒指導 各部顧問	【成果指標】 部活動や課外活動を意欲的な取り組みを通して、文武両道を実践し、生徒の自主的な取り組みと自立心の育成を目指したい。	部活動や課外活動に意欲的に取り組んでいる徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	[10月集計「後期部活動加入状況」] 部活動加入率 89.6% →【判定 B】 <内訳> 運動部 文化部 合計 1年男子 82.3% 11.0% 93.3% 女子 54.2% 39.1% 93.3% 2年男子 75.6% 6.4% 82.0% 女子 51.0% 37.9% 88.9% 全 体 65.1% 24.5% 89.6%	約9割の高い割合で部活動に加入している。部の精選、地域移行など部活動を取り巻く環境が今後大きく変化していく中であっても、校是である文武両道への意識を高く持ち続け、3年間継続して部活動に取り組む生徒を増やし、活気ある活動につなげていきたい。
	④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生(保護者等)を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。	○総務 教務 生徒指導 学年 情報	【成果指標】 保護者等が生徒及び学校への理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。 【成果指標】 本校ホームページをこまめに更新し、アクセス数を増やす。	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4300名以上 B 4000名以上 C 3500名以上 D 3500名未満 行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA) 年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満	[4～3月の実績]学校行事に参加した保護者の延べ人数 4075名 判定 年間の人数で評価 →【判定 B】 <内訳> 入学式 493名 PTA総会 341名 桜高祭 1491名 学校公開 82名 進路説明会1年 311名 進路講演会2年 245名 進路説明会3年 122名 3S歩行 238名 学校訪問(中学校PTA) 312名 卒業式 440名	昨年より桜高祭を一般公開としたこともあり、ほぼ4000名の来校を維持している。3S歩行のコース変更により、保護者協力者の役割分担を見直したため、参加した保護者は約半減している。今後も、多くの方々に参加していただき、学校への理解を深めてもらえるよう各課・学年等と連携してより組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	「文武両道」をやり遂げることは大変である。本校は勉強も部活動も頑張っているというイメージがある。3年間の頑張り、大学受験や社会に出てからの他者との違いになる。本校の出身者はそれぞれの組織の中でも自分で考え取り組んだり、人付き合いもよいと感じる。これまでの歴史、伝統を踏まえて今後も継続してほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	部活動等の効率的な運営を含め、学校全体においても組織的かつ効果的な学校運営となるよう取り組む。また、教員に対する研修がより具体的なものになるよう検討するとともに、取り組んだ研修の成果を活かして、教育活動の充実に努め、その成果を生徒に還元していきたい。					
4 組織運営・教職員の働き方の改善などタイムマネジメントの意識を高め、自己研鑽や対話の時間を創り出せるよう、効果的な教育活動を実践する。	① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実に努める。	○管理職	【努力指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒に対する時間を確保し、定時退校ワーク、部活動休養日等を設けることにより、時間外勤務時間の縮減に努める。	「仕事の効率化やタイムマネジメントの意識を高めた業務の遂行に努めている」という質問項目に対して (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」 問33(タイムマネジメントの意識) 私は、効率化やタイムマネジメントの意識を高めた業務の遂行に努めている。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまる合計80.0% →【判定 A】 <内訳>(ア):20.0% (イ):60.0% (ウ):12.3% (エ):1.5% (オ):6.2)	今年度から、効率化やタイムマネジメントの意識について、質問項目に追加した。7月調査では78.5%であった肯定的な回答が80.0%で微増、今後も業務を見直し、できるだけ簡素化すること、一人ではなく複数で。組織的に行うこと、教材等は共有するなど、仕事の効率化やタイムマネジメントの意識をより高め、できる限り勤務時間の縮減を働きかけていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	働き方改革の推進は進める必要がある。若い方とベテランの方とは意識も違うと思われるが、業務の平準化などに取り組み、生徒一人一人と向き合う時間を担保してほしい。また、働き甲斐の改革にも取り組んでほしい。資料作成のための時間削減、DX化の推進にも力を入れてほしい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	教員のタイムマネジメント意識を更に高め、業務の平準化、勤務時間の短縮ができるよう呼びかけを強化していく。					
5 学校の安全安心を確保するために、全教職員が防災や安全管理の意識を高め、非常時にもしなやかに対応できる資質・能力やシステムを構築する。	① 安全管理マニュアル(学校安全計画)の見直しを図り、全教職員が防災や安全管理の意識を高め、非常時にもしなやかに対応できる資質や能力の育成を図る。	○管理職 総務課	【満足度指標】 災害安全の研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、以後、学校における安全安心の確保に役立てることができたと感ぜられる。	「生徒の命や安全を守る使命感に基づき、防災や安全に対する意識を持って教育活動を行っている」という項目に対して (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)が A 60%以上 B 40%以上 C 20%以上 D 20%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)」 問28(防災・安全意識) 私は、生徒の命や安全を守る使命感に基づき、防災や安全に対する意識を持って教育活動を行っている。 (ア)よくあてはまる+(イ)あてはまるの合計 93.9% →【判定 A】 <内訳> (ア):よくあてはまる26.2% (イ):あてはまる67.7% (ウ):あまりあてはまらない1.5% (エ):あてはまらない0.0% (オ):わからない4.6%	今年度から、新たに追加した項目である。7月調査では肯定的な意見が95.4%と非常に高い結果であったが、12月調査においても、93.9%と高水準を維持している。特に、防災関連の研修を行ったことから、よくあてはまるという回答が16.9%から26.2%に増加しており、効果的な取り組みであったと考える。今後もより具体的でかつ実践的な研修を行うことで、防災に対する意識を高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	台風や大雨については事前に対策ができる。地震など突発的な事案に関してはマニュアルの通りには進まない。2～3年先、何が起こるかを想定して、対策をとってほしい。また、万が一のことを考え、本校の生徒のために、防災グッズや食料等の備蓄を進めてはどうか。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	災害が起こった時にしなやかに行動できるよう防災マニュアルの見直しも含め、より具体的な実行性のある対策が取れるよう検討していく。					